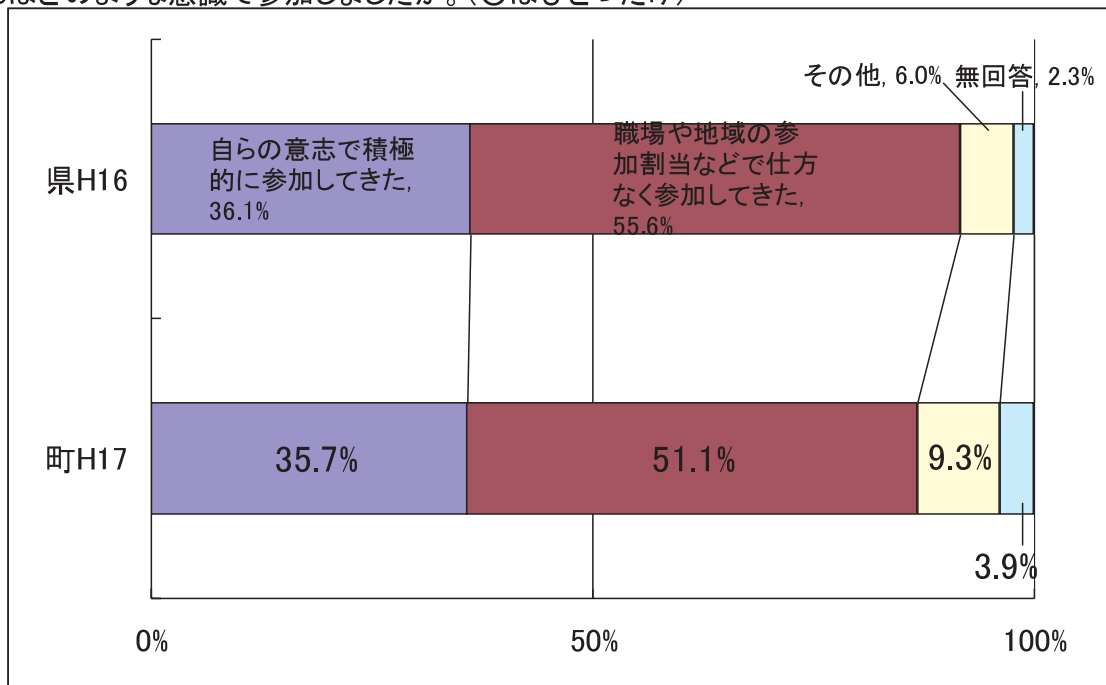
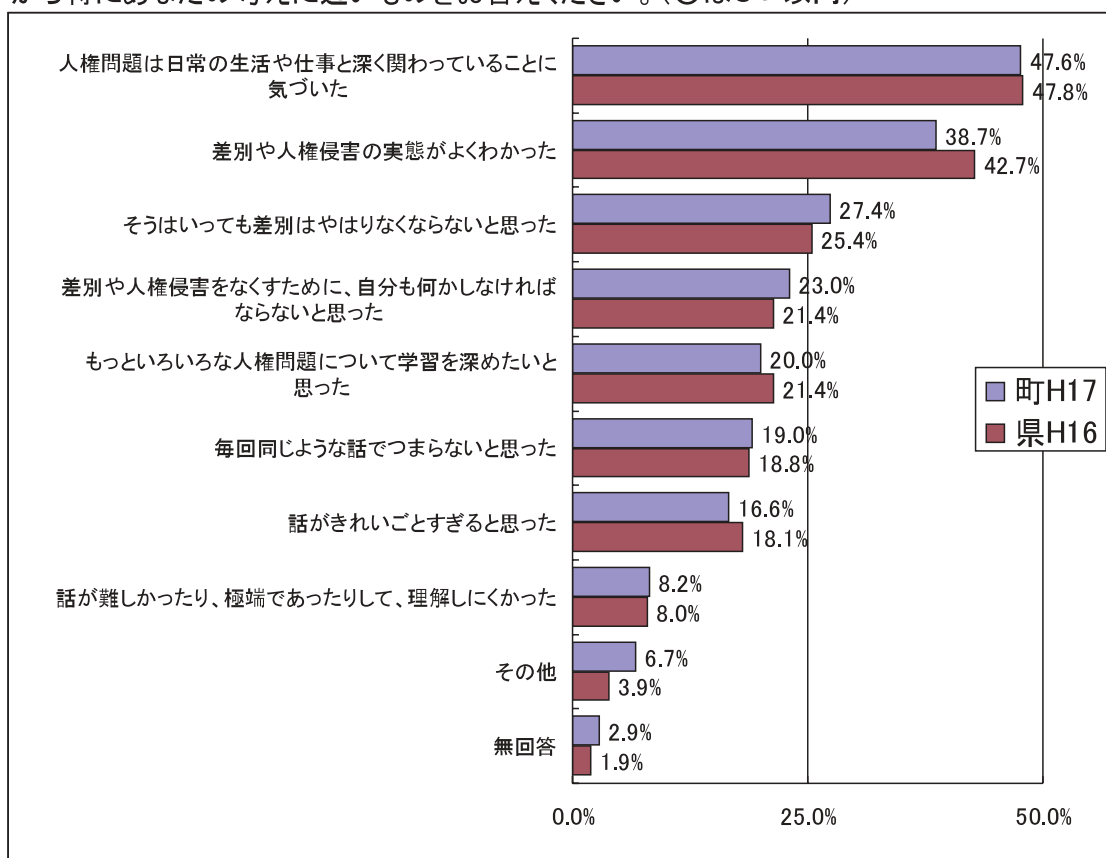


問9-② 前問9-①で「10回以上」、「5～9回」、「1～4回」を選択された方におたずねします。それはどのような意識で参加しましたか。(〇はひとつだけ)



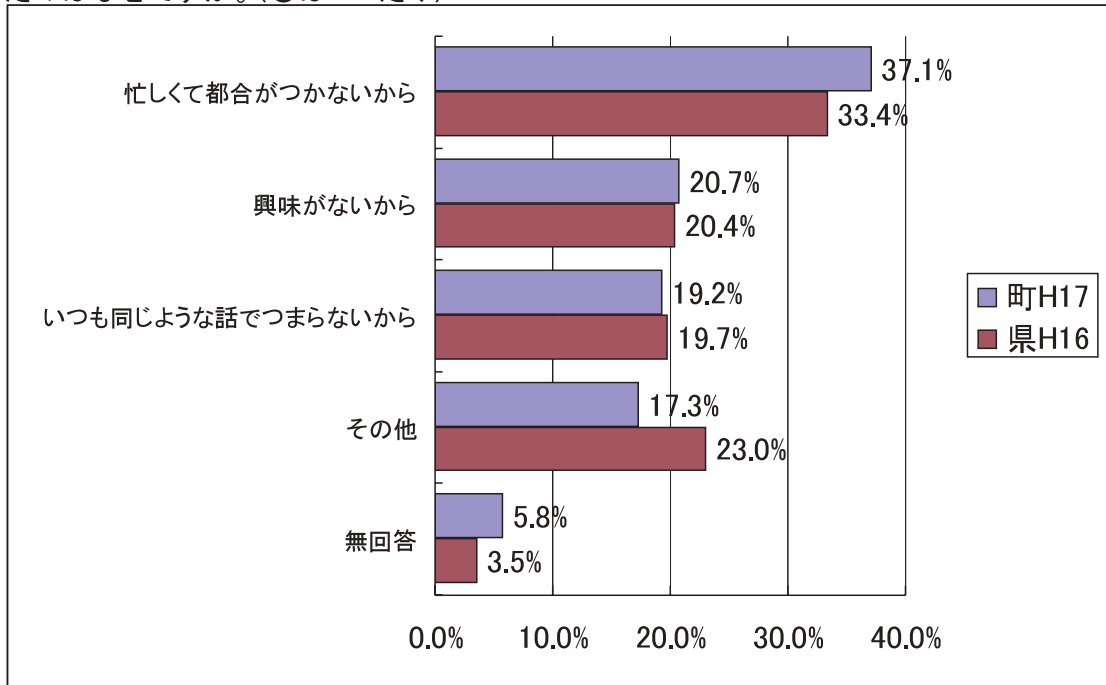
「自らの意志で積極的に」参加された人も1/3を上回るが、「参加割当などで」参加された人が半数を超える。

問9-③ 同じく問9-①で「10回以上」、「5～9回」、「1～4回」を選択された方におたずねします。人権問題についての講演会や研修会に参加されてどのような感想をもたれましたか。次の中から特にあなたの考えに近いものをお答えください。(〇は3つ以内)



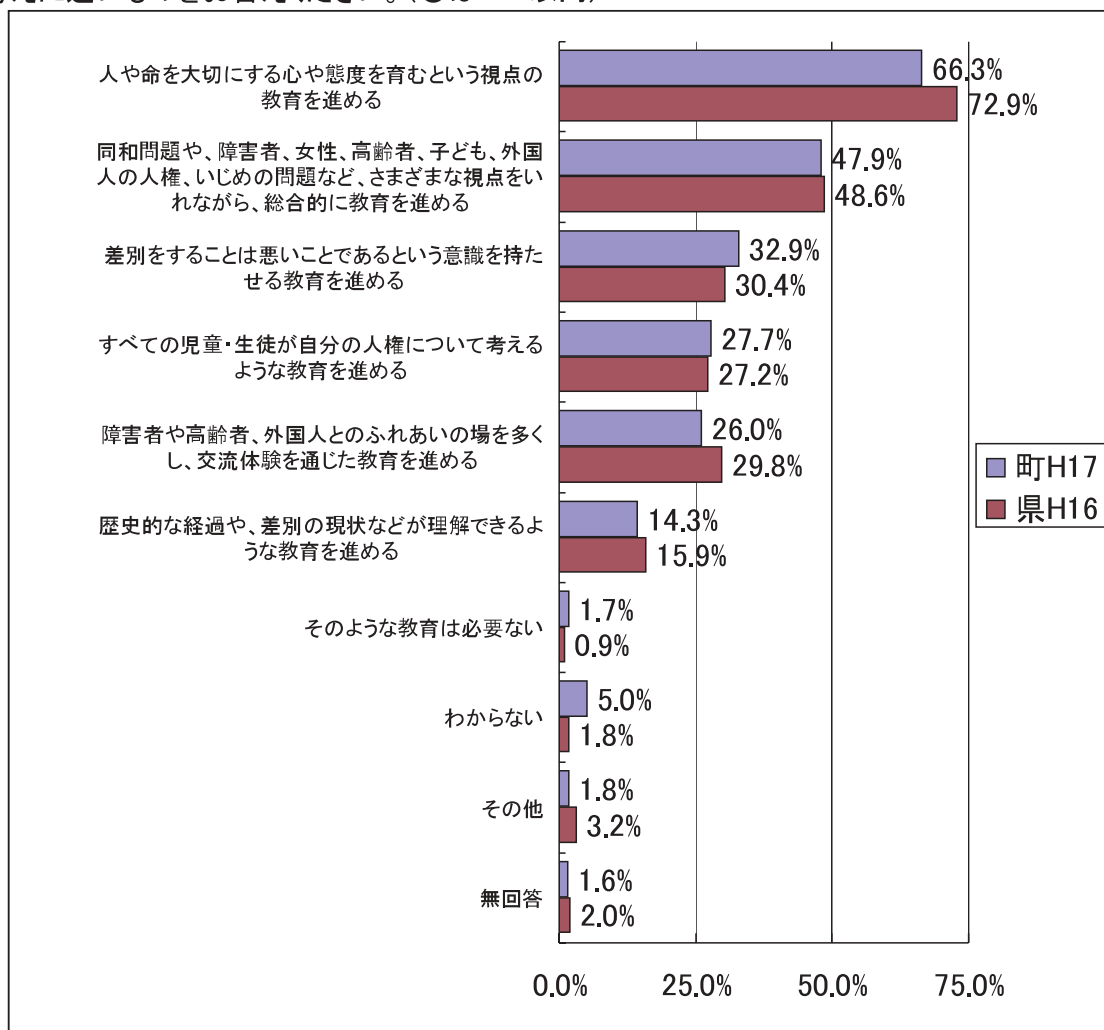
研修会等に参加し、半数近くの人が「人権問題は日常の生活や仕事と深く関わっているに気づいた」(47.6%)としている。「差別や人権侵害をなくすために、自分も何かしなければならなかった」と思った(23.0%)、「もっといろいろな人権問題について学習を深めたいと思った」(20.0%)などの問題解決に向けて能動的な感想が一定程度ある反面、「そうはいつでも差別はやはりなくならないと思った」人も27.4%に上る。

問9-④ 問9-①で「参加したことがない」を選択された方におたずねします。参加されなかったのはなぜですか。(○は1つだけ)



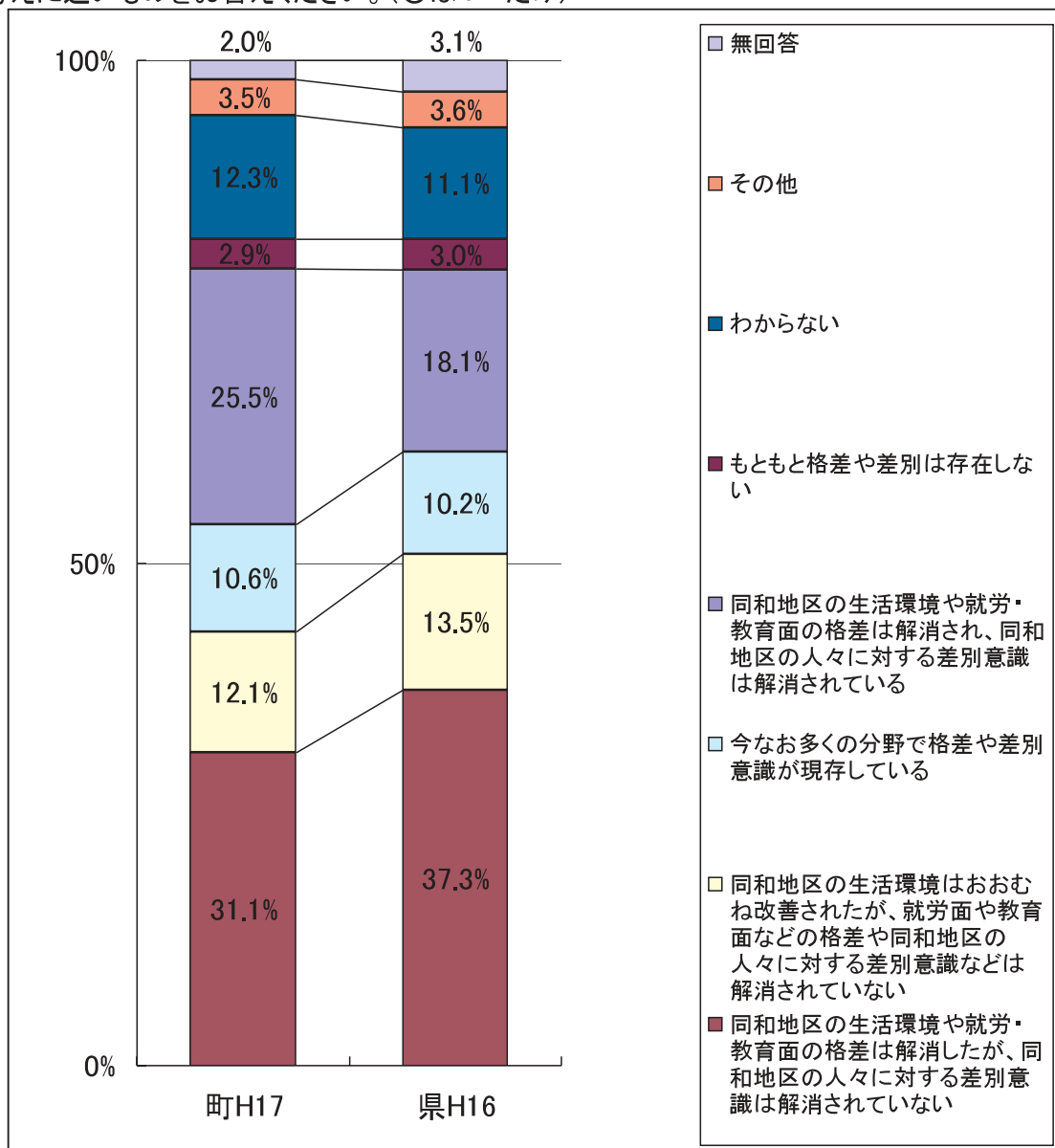
「忙しくて都合がつかないから」が最も多い(37.1%)が、「興味がないから」と「いつも同じような話でつまらないから」の計も39.9%に上る。

問10 人権を尊重する心や態度を育むために、学校教育においてどのような教育を行ったらよいと思いますか。あなたの経験や現在の子どもを取り巻く状況などから判断して特にあなたの考えに近いものをお答えください。(〇は3つ以内)



人権を尊重する心や態度を育むために必要と思う学校教育は、「人や命を大切にすることを育むという視点の教育を進める」が最も多く(66.3%)、次いで「同和問題や、障害者、女性、高齢者、子ども、外国人の人権、いじめの問題など、さまざまな視点を入れながら、総合的に教育を進める」(47.9%)。「そのような教育は必要ない」は1.7%しかない。

問11 部落差別の現状についてあなたはどのように考えていますか。次の中から最もあなたの考えに近いものをお答えください。(〇は1つだけ)



差別意識は解消されていないと感じている人(※1)は53.8%(県61.0%)。差別意識は解消あるいは存在していないと感じている人(※2)は28.4%(県21.1%)。格差があると感じている人(※3)は22.7%(県23.7%)。格差は解消あるいは存在していないと感じている人(※4)は59.5%(県58.4%)。

(※1「同和地区の生活環境や就労・教育面の格差は解消したが、同和地区の人々に対する差別意識は解消されていない」、「同和地区の生活環境はおおむね改善されたが、就労面や教育面などの格差や同和地区の人々に対する差別意識などは解消されていない」及び「今なお多くの分野で格差や差別意識が現存している」。)

(※2「同和地区の生活環境や就労・教育面の格差は解消され、同和地区の人々に対する差別意識は解消されている」及び「もともと格差や差別は存在しない」。)

(※3「同和地区の生活環境はおおむね改善されたが、就労面や教育面などの格差や同和地区の人々に対する差別意識などは解消されていない」及び「もともと格差や差別は存在しない」。)

(※4「同和地区の生活環境や就労・教育面の格差は解消したが、同和地区の人々に対する差別意識は解消されていない」、「同和地区の生活環境や就労・教育面の格差は解消され、同和地区の人々に対する差別意識は解消されている」及び「もともと格差や差別は存在しない」。)